

# 名古屋芸術大学グループ 通信

13  
June  
2010



## 【特集】<新学長に訊く> 竹本義明



### Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OG

だから、あきらめない  
牧村沙保

NUA-STUDENT

「でも、子どもは好きですね」  
人間発達学部 子ども発達学科 4年  
渡邊 愛  
「一生懸命、かな」  
人間発達学部 子ども発達学科 3年  
加藤千絵

### News/topics

ニュース&トピックス

#### 音楽学部

- 第37回 卒業演奏会が行われました
- 大学院音楽研究科  
第12回修了演奏会が行われました
- 第32回オペラ公演  
「小さな魔笛」が上演されました
- ミュージカル公演  
「An Apple-Pie is A Sign for Murder!?  
～アップルパイは殺しのサイン!?～」が  
行われました
- 「The renaissance21  
～オーケストラ×ライブ～」を実施しました

#### 人間発達学部

- 「新入生オリエンテーション合宿」

#### 美術学部/デザイン学部

- 第37回卒業制作展 / 記念講演会
- 第14回大学院美術研究科・デザイン研究科  
修了制作展が行われました
- オープンキャンパス2010【スプリング編】  
春、名古屋芸大と出会う!!
- リモラッピングデザインコンペで  
本学デザイン学科(MCDコース)が  
2年連続優勝!!

#### 大学/大学院

- 2010年度 名古屋芸術大学入学式
- 東西キャンパス 新入生歓迎迎祭

#### グループ校特集 / 滝子幼稚園

- 滝子幼稚園の年間行事と活動のご報告

#### コラムNUA

あこがれと運命愛  
音楽学部教養部会 教授 中河 豊

### Master Artist

マスターアーティスト

ニュートラル  
デザイン学部 インダストリアルデザイン選択コース  
准教授 片岡祐司

### Information

インフォメーション

- 2010年6月～10月までの  
主な行事・イベントスケジュール
- 編集後記



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

■ 名古屋芸術大学 / 大学院：  
音楽研究科  
美術研究科  
デザイン研究科

学部：音楽学部  
美術学部  
デザイン学部  
人間発達学部

■ 名古屋保育・福祉専門学校 /  
保育科 介護福祉科  
■ 名古屋芸術大学附属クリエイティブ幼稚園  
■ 滝子幼稚園



## 特集 <新学長に訊く>

# 竹本義明

(たけもと よしあき)

1949年 北海道生まれ。

1972年 武蔵野音楽大学卒業  
名古屋フィルハーモニー交響楽団入団

1989年~ 名古屋芸術大学勤務

1992年 名古屋芸術大学准教授

1999年 名古屋芸術大学教授

2004年 名古屋芸術大学副学長、名古屋自由学院理事、評議員

2005年 日本高等教育評価機構評価委員

2007年 武豊町民会館館長

2010年 名古屋芸術大学学長

トランペットの演奏研究に加え、芸術運営・音楽ビジネスも専門とする。名フィル時代から、一演奏者の枠に収まらず楽団運営にも携わり、この経験をもとに、実践的なアートマネジメントの研究にも取り組む。その活動は多岐に渡り、武豊町民会館(ゆめたらうプラザ)館長も務める。

新年度が始まって約1ヶ月。本年度より、新たに学長に就任した竹本義明学長に、お話を伺いました。今年は、本校が創立されて40周年の記念すべき年。しかしながら、景気後退や少子化など、大学を巡る状況は、決して明るいものではありません。慎重な舵取りが求められる中、新しいリーダーは、どんなことを考え、また、大学は、私たちは、何を目指して進むべきなのか、柔軟かなところからちょっと硬い話まで、たっぷりとお話を伺いました。

### ▶ 2010年4月28日 学長室にて

— すごく基本的なことを教えてください。先生は、第何代目の学長になるんですか？

私も気になって調べてみたんですよ。そうしたら、学校が創立されて最初の10年はめまぐるしく変わってるんですね。時には事務取扱いだったり、二人で兼任したりして、次の10年で少し落ち着いて、安定していったようです。今までで9の方が学長をやられているんですね。ただし、二人の方が、年を隔てて複数回やられているので、何人目かというとは私は10人目なんですけど、何代目かというとは13代目になるのではないかと思います。

●●●

— これまで学長というと、教養の先生が学長をされるが多かったようですが、音楽の先生では初めてになるんですか？

そうかもしれないですね。牧定忠先生も、元々は美学・音楽なんですけど、理論ですよ。美術では高木勲先生が一期やられましたけど、音楽では、確かにそうかもしれな

いですね。

— 音楽の先生が学長になられたことについて、何か感慨は？

いや、特にはありませんよ(笑)。ただ、四学部ありますので、それぞれの学部の特色もあるし、意識や考え方も違いますので、できるだけバランスよくまとめていければと思っています。

●●●

— 学長に選ばれた感想についてお聞かせください。

本当に、一番厳しい時代に学長になったなと思っています。従来の学長というのは、教学のことを一所懸命やればよかったんですけど、これからは、他の要素も重要になってきます。そういった教学以外のところをしっかりとやっていかなければならないと考えてます。従来からの、大学の自主性、教育の自主性、それに加えて経営というものが入ってきます。その部分をしっかりとですね。

●●●

今まで、副学長時代も含めて、私は常任理事をやってきました。経営にも関わってきました。その頃から、何かと教学の方とは衝突しています。予算にしても、人事にしてもです。大学というところは、一般企業とは異なり、教授会が一定の権限を持っています。教員の人事権も持っていますし、毎年、何人の学生を入学させるかを決定する、一部、経営に係わることにまで権限は及びます。そのあたりを、これまで以上に調整していかないと難しいかなと考えています。

●●●

— さて、人間発達学部の大学院がいよいよ設置されるわけですが、その後については、どんなことをお考えですか？

今は、社会が経済的な低迷、また、少子高齢化でなかなか学生が集まらないうと、大学にとって非常に厳しい時代です。今年は創立40周年ですが、次の10年を、本当に素晴らしい50周年を迎えたいという希望があります。そのために、まず現状を分析してどういったことを目指して行くの

か、ということをやするわけですが、今までのように過去を分析してそれに基づいて将来を描くということでは、スピードの速い時代ですから、遅いんですね。特に、大学は議論ばかりに終始し、議論が終わったときにはもう手遅れ、そういうことが多々あります。だから、ある部分、強引かもしれないですが、素早く行動に結びつけていくことが肝要かと思えます。もちろん、必要な議論はできる限り行ってですね。

今、考えているのは、四学部が完成して四研究科が出来上がると、私立大学としては全国でも稀な総合芸術系大学になるんですね。人間発達学部も、そこで必要な芸術、音楽、美術、すべて含めてカリキュラムが組んでありますので共通しています。私学唯一の総合芸術系大学、全国的なブランドとなるように目指していきたいです。

### ▶ 私学唯一の総合芸術系大学

具体的には、カリキュラムの改編が第一です。四学部共通の基礎科目を用意したいと思っています。現状は、各学部がそれぞれ独自にカリキュラムを用意していますが、入学者のレベルとといいますか、現状では多様化して、今までとは違ったものになってきています。以前なら、芸術大学に入るには、一定レベル以上の実技が必要というのが当然だったわけですが、そうではなくて、芸術に興味があって意欲があれば、大学の中で教育をしていくというスタイルに変わってきています。それに対応する形で、できれば教養科目に加えて、学際科目としてそれぞれの学部の専門基礎を入れたものでベースを作りたいと考えています。芸術系大学のいいところをフルに活かして、まず基礎科目の共通化を図ります。その上に、今度は専門科目を3、4年でコース別に立てていく。今、他学部履修だとか他大学の履修をやっていますが、他学部履修の規定を利用しなくとも、大学の中でできるようにしようというものです。現状でも、音楽も好きだけど、美術も好きだと、こんな学生が相当数いるんですね。また、

これから芸術は、私個人は、音と映像の融合だろうと思うんですね。そこを、もう少し強力に進めたいと考えています。

●●●

—カリキュラムの改革ですね。共通の教養科目のような芸術系の科目を設けるわけですね。

じつはですね、すでに音楽学部で音楽総合コース、美術ではアトクリエーターコースということで、試験的に行ったわけですが、これではっきりとした結果が出ています。学生は、そこに一番多く集まっていますわけですからね。この方向を推し進めようということです。

●●●

—大きな改革となりますが、改革を行うためには強いリーダーシップが重要です。リーダーシップについて、どんなふうにお考えですか？

大学の組織は、国立大学も法人化されましたが、なかなかリーダーシップを執ることが難しいところではあります。先ほども言いましたが、教学については教授会が一つ権限を持っていますし、それに対して学長が権限を振りかざしてやっていくというのは、会社とは違って馴染みにくい部分があります。だから、私が考えているのは、学長は将来の方向性を示す役割を担うものなんです。それに基づいて、常に丁寧に、機会のあるごとに、皆さんに訴えかける。それでなければ、空中分解を起こすと思うんですね。ただ、学長は、皆さんの選挙で選ばれているわけですから、何か衝突したときに話し合いで解決できると考えています。

●●●

最初の部長会のときに、私の考えを申し上げたんですが、各学部長さんは学部運営に一番に取り組んでいただかなければいけません。それに加えて、大学全体のことも考えていただく必要があります。学生部長、広報企画部長、図書館長については、それぞれの課題を持っていただいて、学内の教職員から委員を選んで特別委員会を

組織して、夏休みまでに一定のレジュメを出して欲しいと頼んであります。それをもとに各学部教授会、委員会で協議して煮詰まったら実行に移していくと、いうことにずでなっています。また、そのことを時間をかけてやるのではなく「3年でやりませぬ」と私は宣言しました。中期目標5年、長期10年と言いますが、そこまで待つられません。財政的なことを考慮しても3年間。2012年〜13年くらいになりますと、国の高等教育機関に対するさまざまな審議会の答申が出てきます。そうすると、将来の方針がある程度明確になってきますので、そこを見据えながら、方向性ははっきりと打ち出したいと考えています。

### ▶ 他校と共同し学生の地元引き留めを

—この地域にも競合校がたくさんありますが、総合的な芸術大学ということで差別化していくということになるんでしょうか？

競合校といっても、芸術系の学校だけではないんですね。他大学で、非常に効果を上げている元気な大学を見ますと、一般大学でありながら、芸術系科目を導入しているところが増えてきています。また、この20年くらいで大学数が飛躍的に増えています。ただ、専門大学では、美術・音楽系の大学というのは増えてないんですね。なぜ増えていないかというと、経営的な問題なんです。端的に、投資をする割には、回収は難しいんです。個人レッスンであったり、建物も相当必要になりますし、費用のかかる割には学生を大量に入れられない。授業も、一人の先生が300人、400人の学生に授業するわけにもいかない。少人数授業ですので、新規参入が少ないんです。だから、そういう一般大学の動向もありますけど、芸術系大学のいいところを活かして強みにしていきたいです。

また、地域の捉え方でも見方は変わってくると思います。ミクロ的な見方をすれば、地元にあります競合校、また、関東、関西にも競合校があります。芸術系大学を目指す受験生の絶対数が減少している中で、地域

で一つにまとまって、受験生を引き留める作業をしなければならないと思っています。データを見ますと、愛知県は比較的、地元での大学を志望する受験生が多いんです。地元へ7割、3割は、関東、関西、都



教授がいて講師がいて、という組織ではありません。教授であろうが准教授であろうが、全部フラットなんです。ところが事務は、事務部長を頂点とした事務組織があります。それがうまく使

市の魅力もあるんでしょうが、そういったところへ出ていきます。これは、一般大学のデータなんですけど、芸術系ではもっと出て行っているんだろうと考えられます。それを地元へ引き留めるだけで、たぶん、競合校も含めて定員を充足していけるのではないかと思います。地域の他校と共同して学生を地元へ引き留める作業をどこかでしていきたいなと考えています。その上で、それぞれの学校が特色を持って競うことで、自分の大学に入らせていただくことを目指す。デザインでも実技を伴わないようなコースを持つところも増えていますし、そういうところを含めて、芸術系大学で足並みが揃えられないかなということも思っています。幸いにも、個人的には、学長さんとは何度か顔を会わせておりましてね、話はできると思うんですね。

●●●

―なるほど、それは受験生にとっても有意義ですね。受験生の引き留めだけでなく、いろんな大学と演奏会や展覧会など共同していければ、いいと思うんですね。

地域の受験生全体に与えるインパクトがありますよね。個々の大学でやることももちろん必要なんですけど、確かに、東京は色々な刺激があるし、将来のことを考えると、出会いもあっていいと思うんです。けれども、結構、大学は関東、関西に出て、就職は地元にと志望する学生も多いんですよ。そうすると、4年間離れてしまうと非常に難しい状況になってしまっている。もう少し、地元の大学が受験生、保護者にアピールをしてやっていくべきだろうと思います。

●●●

―大学の運営を考えたとき、先生方と事務組織は両輪の輪だといえます。どのようにお考えですか？

教員のFD(ファカルティ・ディベロップメント)をやっていかなければならないです。教授法だとか授業の改善ということですね。それと併せてSD(スタッフ・ディベロップメント)、職員の資質向上をやっていかなければなりません。本学の場合、改編を重ねてきてます。歴史を見ますと、保育専門学校、幼稚園があって短期大学があって、それから美術・音楽学部を作ってデザイン科を学部にして、人間発達学部を作ってということで、それぞれに事務職員が所属していたんですね、それが今ようやく一つになったところで、事務職員の意識は、以前務めていたところの慣習といいますか。在り方がどうしても抜けきれないところで、非常に統一感が無いんですよ。どこかで、全面的に新しい体制にマッチしていくような組織にしていかなければいけないと日々考えています。法人の方と、事務組織の役職者の方々、教学の方と共通理解を持って、進めて行きたいです。大学というところは、教員と職員が協働してやっていかなければ成り立たないところですから、今後、力を入れていきたいと思っています。

### ▶ 大学は責任を取らない組織

―大学という組織のいい面もあれば、難しい面もありますね。特に改革となると強引には進められない難しさがあるように思います。

二面性があると思うんですね。教員組織は、講座制ではないんです。学科目制です。旧国立大学のように教授がいて准

い分けられていません。フラットな教員組織が影響しているのかもしれないですね。これも、これからの大きな課題の一つです。

また、組織として見た場合に、責任の所在が不明瞭なところがあります。どうも見えていますと、何かあった場合、誰が責任者なのかわからないため現場が矢面に立たされるのではないかと臆しているように思います。実際に行動したはいいいけど失敗したときに、自分が責任を取らなければいけないんじゃないかと疑心暗鬼になっているのではないかと思います。いざ責任というものが出てきたときに、一步、引いてしまうような感じですね。大学組織は、学長はじめ、責任を取らない組織なんです。教授会で合意で、誰が責任を取るの？学長でしょ、学部長でしょ、と言いつつ、皆で合意で決めたというやり方をするんです。はっきりと学長なり、学部長なり、最終責任があると明確にしておかないと、動けないと思います。

●●●

―組織についても一つ。音楽以外は一学科になりました。先生方の組織のあり方も、一学科になった場合に変りますか？

皆さんと打ち合わせしてるわけではないので、私自身の考えなんですけども、確かに四学科から二学科にしました。第一の目的は、設置基準上の教員数ですね、入学定員に占める教員数の規定がありまして、それで、学科をいくつも持っていますと非常に多くの教員が必要になります。一学科にするメリットは、専任教員数が少なく済むわけです。学生が減っていく時代ですので、できるだけ支出を抑えようというのが、残念ながら第一弾なんです。それとと

もに、教育の中身をもっと充実させていこうということ、やっているわけですね。将来的には、音楽も一学科がいいのかなと思います。一学科で、ニーズに合わせたコースを立てて、教員が専門領域を広げながら、対応していくことになるんだろうと思います。方向性としては、先ほど言いました、共通のベースのところ、専門教育を各学部ごとにいくつかコース立てをしてということになります。試行してみて廃止しなきゃいけないところが出てくるかもしれないし、新たなものを立てなきゃいけないかもしれません。ただし、こうした方向性で進んでいくことになります。

●●●

— 学長が、学生だった頃と比べて、今の学生から感じる点とか、どんな学生を育てたいか、お考えを聞かせてください。

何かにつけて、以前よりは、意欲がちょっと弱いのかなと感じます。がむしゃらさが少ないのかな。特に芸術系大学の場合には、本来は目的がしっかりしてるわけですよね、絵が描きたいとか、演奏したいとか…。そういったところはあるんです

が、以前よりは貪欲さというか、がむしゃらさに、欠ける気がします。先が見えてるのかもしれませんが、でも、努力すれば、それなりに実現すると思うんです。逆に、今の学生は本当に意識が多様化していて、色々なものに興味を持って器用にこなすようにも思います。我々にはないようなものを持っていると感ずますね。物差しでは測れないような、比較ができないような状況になってきているように思いますよ。

器用なんです、一つのことをコツコツと積み重ねるようなことが意外と苦手なんですよね。僕自身、どうしてトランペットでプロになれたのかというと、楽器を始めた頃に、先生・先輩に、一つの音を長く伸ばす練習ばかりやらされました。面白くないですよ。姿勢を崩さずに一つの音を長く伸ばす。でも、それが基礎なんです。今でも毎日繰り返していかないと嫌うんです。でも、それをやらなければ発展がないんです。美術にしてもデッサンだと思うんです。そういった部分がおろそかにされているという気がします。

それで、昔の教育というのは、つべこべ言わずにとにかく練習して下さい、描きなさい、ということだったんだろうと思います。若い学生諸君には、基礎をもう一度、見直して欲しいと思いますね。

●●●

— 学生、教職員に向けてメッセージをお願いします。

共に頑張って前進しましょう。日本でも有数のブランドの芸術系の大学にしていきたいです。作家、音楽家、先生・保育士を目指す学生が集まる大学に、入りたいといわれる大学にしていきたいです。それを見て、卒業生も教職員も、甘んずることなく切磋琢磨しあうような、良い循環を生むような。必ずやできると思います。共に前進しましょう。



長時間にもかかわらず、すこしも疲れも見せず、非常にエネルギッシュな方でした。あくまでもソフトな語り口ですが、ときには歯に衣着せぬ発言が痛快です。トランペットについては「時間がなくて、練習できないんです。本来は、そこを一番大事に考えなきゃいけないんですけど、一番後回しになってまして、困りますね」と少々ぼやいていたのが印象的でした。

アート&デザインセンター／オープンキャンパス



アート&デザインセンター  
2010/2011  
展覧会スケジュール

※会期・内容は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

Open / 12:15～18:00(最終日は17:00まで)  
日曜・祝祭日休館  
[入場無料]どなたでもご覧いただけます。  
お問い合わせ先 / (0568)24-0325(代)

- 6月 4日(金)～ 6月 9日(水) 「From REMISEN#12: Helle Vinter&Marina Pagh」展
- 6月 4日(金)～ 6月 9日(水) 「After REMISEN 12×12」展
- 6月11日(金)～ 6月16日(水) 名古屋芸術大学教員展
- 6月18日(金)～ 6月23日(水) 地図帳／fff☆展覧会／shine
- 6月25日(金)～ 6月30日(水) 洋画1コース3年展
- 7月 2日(金)～ 7月 7日(水) 2010年度 前期交換留学生作品展
- 7月 9日(金)～ 7月14日(水) present -洋画2コース選抜展-
- 7月16日(金)～ 7月28日(水) 素材展
- 8月17日(火)～ 9月 2日(木) 2010年度夏の企画展 「Unique Commons —わたしだけのみんなのもの—」 名古屋芸術大学美術学部洋画 卒業生展

- 9月15日(水)～ 9月21日(火) 「版の方法論#5: バンコクと名古屋から」展
- 9月24日(金)～ 9月29日(水) To, New Soft A Sculpture 新ソフトスカルプチュアへ
- 10月 1日(金)～10月 6日(水) 小林尚美・田中千世子展
- 10月 1日(金)～10月 6日(水) 卒業生たちの今、テキストスタイルを学ぶ先にあるもの。展
- 10月 8日(金)～10月13日(水) 大学院同時代表現研究制作洋画展
- 10月11日(月祝)～10月13日(水) アーっ! ラジオ a'aart RADIO!
- 10月15日(金)～10月20日(水) 「アート&エコ・マッチングプロジェクト in NUA」展
- 10月15日(金)～10月20日(水) 「Hand Hospesace; 医療と美術」展
- 10月22日(金)～10月27日(水) 名古屋芸術大学大学院 洋画制作展
- 10月29日(金)～11月 3日(水祝) 「遭遇するドローイング; ハノーファー&名古屋2010」展
- 11月 5日(金)～11月10日(水) 彫塑コース作品展(仮称)
- 11月12日(金)～11月24日(水) 2010年度秋の企画展 萩原修ディレクション 「プロジェクトチーム」展
- 11月26日(金)～12月 1日(水) MCD デパートメント
- 12月 3日(金)～12月 8日(水) 2010年度 後期交換留学生作品展
- 12月 3日(金)～12月 8日(水) 「幼稚園児たちのゲイジツ」展
- 12月10日(金)～12月15日(水) メディアデザインコース作品展2010
- 12月17日(金)～12月20日(月) 工芸領域学生展覧会
- 1月 7日(金)～ 1月12日(水) 日本画3年作品展
- 1月14日(金)～ 1月19日(水) 美術学部コース展(仮)
- 1月28日(金)～ 2月 1日(火) AFTER REMISEN#12; 石倉悦加+加藤美奈子展



2010年度  
オープンキャンパス

- 音楽学部
  - 5月15日(土)10:00～
  - 7月18日(日)10:00～
  - 9月26日(日)10:00～
- 美術学部・デザイン学部
  - 6月13日(日)サマーI編 10:00～
  - 7月18日(日)サマーII編 10:00～
  - 9月26日(日)オータム編 10:00～
  - 3月27日(日)スプリング編(2011年)
- 人間発達学部
  - 7月18日(日)10:00～
  - 8月29日(日)10:00～
  - 9月26日(日)10:00～



## 「でも、子どもは好きですねえ」



Vol.23  
**NUA-STUDENT**  
**渡邊 愛**  
(わたなべ あい)  
人間発達学部  
子ども発達学科 4年



「友人からもらったものは、計り知れない」と話す。人と接することが専門の学生たちは、思いやる気持ちがお互いに強い。「すごく励ましてもらっています」

「本当に大変でした！もう一回…て言われたら辞退しちゃいかも(笑)。」実習で10日間泊まり込んだ児童養護支援施設での経験談。「虐待を受けたり、保護者のいない子どもたちと接するんですけど、私がした話で、とある子が過去の嫌なことを思い出しちゃったみたいで、そのことでトラブルに…。それから、その子どもたちは、とても愛情に飢えてて、与えてくれる人にはみんな必死にすがってくるんですよ。それで、すごく小さな約束でも、例えば『あとで遊ぼうね』とか、守れなかったら猛烈に機嫌を悪くしてしまうんです。それを見て他の小学生の子どもたちが、『先生がいじめた』みたいに嘸したりして、集団で暴言やら叩かれたりとか…。泣いちゃいましたね。」そんな話を、屈託なく、快活に話してくれる。すっかり心は整理され、乗り越えてしまっ

ているとわかり、安心して聞いていられる。今年度、子ども発達学科第一期卒業生となる、4年生。小学校教諭1種、幼稚園教諭1種、保育士資格と、子ども発達学科で可能な資格をすべて取得しようと奮闘している努力家。「3年では、実習が5つですよ。春、夏の休みも何かの実習が入ってます。保育所、幼稚園、老人ホーム、特別支援施設…。」前述の児童擁護支援施設もその中の一つだ。「つらくって、泣いて、でも、子どもは好きですねえ。いい経験になりました。」としみじみと振り返る。しっかりとしたものを積み上げてきたようだ。4年になり気になるのが就職。希望は保育士だが、前述のように3つの資格取得を目指す。試験が迫るが、「これから図書館で勉強です。あがきますよ、私は！」と澁刺と応えた笑顔が、頼もしく映った。

**【先生からのひとこと】** 渡邊愛さんは、人間発達学部において「吹奏学部」を立ち上げたメンバーの一人で、大変リーダーシップがあります。クラリネットを中学の時から続けていて、几帳面さと心の豊かさを兼ね備えています。4月の新入生オリエンテーション合宿では、ゼミナール代表として参加し、大変面倒見がよく“頼りになる優しい先輩ぶり”を発揮し、後輩たちに厚い信頼を得ています。また、教育一家に生まれ育った環境からすでに保育・教育者としての雰囲気を持っている将来がとても楽しみな学生です。(人間発達学部教授：星野英五)

## 「一生懸命、かな」

「高校に入るときから保育士になりたいって思っていたんです。」早くから自分の進む道を決めていたという。「OLとか事務の仕事みたいな、パソコンに向かって仕事するとか、全然、想像できなくて…。人と接する仕事が好きで、それも、子どもと接する仕事ができれば。」小さい頃から漠然と決めていたという。決意は中学の頃には明確になり、高校への進学も迷うことなく保育コースのある学校へと決めた。しかし、道は平坦なものではなかった。「私、保育コースに必要な音楽とか美術とか苦手で、当時の先生の薦めもあって保育をあきらめて、文系を選択したんです。でも、やっぱり保育士になりたいくて、大学を選びました。」加藤さんも、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士の3つの資格取得を目指す学生となった。目一杯の授業を受ける多忙な日々、やはり長期の休みには実習が加

わる。「2年の時に合計で4週間、保育園実習を受けてきたんですが、すごく勉強になりました。現場では、それまで授業で教わってきたことだけでは足りないこともよくわかりましたし、先生たちが実際どう指導するのか、解りました。実習で学べることは本当にたくさんありました。」1年の時には小学校への体験実習も経験した。小学生には、保育園児とはまた別の楽しさがあったという。実習期間の終わりには、別れを惜しみ、手紙をくれる子、優しい言葉をかけてくれる子、忘れられない交流が残った。しかし、それでも保育園の小さな子どもたちへの愛情と興味は揺らがない。「小さい子たち。何をやるかわからない。それがワクワクさせるんです。」苦手なピアノも、環境をフルに活用し克服しようと奮闘する。好きな言葉は「一生懸命」と話す、言葉通りの一途さが伝わってきた。



Vol.24  
**NUA-STUDENT**  
**加藤千絵**  
(かとうちえ)  
人間発達学部  
子ども発達学科 3年



忙しい授業の合間を縫って参加する和太鼓部。練習や仲間との語らいは大きな楽しみ。



**【先生からのひとこと】** 加藤千絵さんは、誠実・温厚な人柄で責任感が強く何事も積極的に行動できる学生です。ゼミIIでのイベントの企画・運営においては、進んで実行委員を引き受け見事なリーダーシップを発揮しました。また、サークル活動の「自然と暮らしを楽しむ会」でも、部長として皆をリードして活躍しています。和太鼓のサークルにも入り頑張っています。子どもたちが大好きで優しい彼女は、きっと素敵な保育士さんになれると信じています。(人間発達学部講師・伊藤孝照)

## 音楽学部

### 第37回 卒業演奏会が行われました

2010年3月4日(木)・5日(金)の両日にわたり、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールにおいて、名古屋芸術大学音楽学部の第37回卒業演奏会が行われました。卒業演奏会は、出演者にとっては大学卒業までの4年間の学業の成果を示す最後の発表の場です。本年度は、この春の卒業試験で優秀な成績を取った学生が、初日の4日

に15名、二日目の5日に15名(作品発表1名を含む)、合計30名出演し、独奏や独唱のかたちで晴れの舞台に臨みました。指導教員を始め家族や友人の見守る中、緊張しながらも日ごろの演習の成果を存分に発揮していました。

また、優秀卒業論文の発表も同時に行われ、音楽文化創造学科音楽教育選択コースで3名、同学科



音楽療法選択コースで4名、同学科音楽ビジネス・ステージマネジメント選択コースで1名、さらに、

優秀作品の発表では音楽文化創造学科サウンド・メディア選択コースの2名が選ばれました。

## 音楽学部

### 大学院音楽研究科 第12回修了演奏会が行われました

2010年3月10日(水)~12日(金)まで3日間にわたり、名古屋芸術大学大学院音楽研究科の第12回修了演奏会が、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールで行われました。

この演奏会は、今春大学院音楽研究科修士課程を修了する院生全員が、オーケストラ/コレギウム・アカデミカ(本学大学院の演奏研究グループで、教員・卒業生などを中心に組織されたオーケストラ)と共演する構成で、独奏・独

唱とオーケストラが織りなす色彩豊かな演奏が特色となっています。

三大陸の異なる文化圏で演奏を学んだ異色の指揮者として著名な松浦 修氏がオーケストラの指揮を執り、作品発表をはじめ、ソプラノ・テノール独唱、ピアノ・フルート・クラリネット・電子オルガン独奏など各研究領域での熱演が観られました。

客席を埋めた聴衆からは惜しめない拍手が贈られていました。



## 音楽学部

### 第32回オペラ公演 「小さな魔笛」が上演されました

2010年3月13日(土)、愛知県芸術劇場で名古屋芸術大学の第32回オペラ公演が開催されました。この公演は、2月27日に三重県総合文化センターで、また、3月9日に岐阜市文化センターで開催されたもので、名古屋公演が最後の上演となりました。

名古屋芸術大学は、1979年に初めてオペラを上演して以来、毎年積極的にオペラ公演に取り組んでいます。今回の「小さな魔笛」は、モーツァルト作曲のオリジナルの「魔笛」を小中高生にも分かりやすく半分くらいに縮小したもので、上演時間も2時間弱に短縮し、「人間の真実を求める若者の教訓劇」を演出したものです。

1600年初頭にイタリアで生ま

れたオペラは、歌と音楽、芝居の要素から構成される総合芸術です。演奏に合わせて衣装を付けたソリストと合唱団の出演者が、悲喜こもごものドラマを繰り広げます。

今回の「小さな魔笛」は、子どもと一緒に大人も楽しめるオペラです。「王子タミーノは、夜の女王から悪者ザラストロに捕らえられている女王の娘パミーナの救出を頼まれる。女王はタミーノに魔法の笛を授け、陽気な若者で鳥刺しのパバゲーノを供につけ救出に向かわせる。城に向かう途中でタミーノはある老人と出会い、ザラストロは悪者ではなく徳の高い人であり、またパミーナが無事であることを知る。パミーナに一目惚れしたタミーノは、ザラストロか



ら、真の愛を手にするためには3つの試練を乗り越えなければならないことを告げられる。“沈黙の試練”が始まり、タミーノは勇敢に試練に立ち向かうが、辛抱できないパバゲーノは試練に脱落しそうになる。また、“沈黙”するタミーノにパミーナは深く傷つき、

自殺にまで追い込まれるが、3人の童子が助ける。一方、夜の女王は、侍女たちと共に自らザラストロの城に攻め込もうとするが、もう少しのところまで失敗する。再会したタミーノとパミーナは、魔笛の力を借りながら残る2つの試練を乗り越えてめでたく結ばれ



る。」といったあらすじです。

学生以外の出演者では、夜の女王（岐阜・名古屋公演）に本学声

楽科卒業生の林美予子氏が、また、ザラストロに本学教員の塚本信彦が出演しました。倉知竜也氏

の指揮によるピアノ・電子オルガン・フルートの生演奏と、ソリストや合唱団の歌声が会場に響き、

また、出演者の熱のこもった演技にホールを埋めた聴衆から惜しめない拍手が送られていました。

## 音楽学部

### ミュージカル公演

#### 「An Apple-Pie is A Sign for Murder!? ～アップルパイは殺しのサイン!?～」が行われました

2010年3月18日（木）、19日（金）の両日にわたり、名古屋市芸術創造センターで、名古屋芸術大学音楽学部主催によるミュージカル「An Apple-Pie is A Sign for Murder!?～アップルパイは殺しのサイン!?～」が上演されました。

本学ミュージカルコースは、コース開設以来、オリジナル作品の創作・上演に力を注いでおり、脚本から演出、作曲、振付、舞台美術、演奏など全てが本学の教員・研究員・学生の手で行われる

のが最大の特徴です。創作された作品は、名古屋地区だけではなく、高山市・関市・金沢市・姫路市などでも上演されており、その都度高い評価をいただいています。

今回の公演は、海辺の高級ホテルで起こった遺産相続に絡む殺人事件を、名探偵ホームズが宿泊客たちとのやり取りの中で解決するというストーリーです。

ステージで練り広げられる華麗な演技と客席が一体となり、熱い興奮に包まれるミュージカル公演



は、聴衆に感動を与えてくれます。熱演する学生達にホールを埋め尽くした客席から盛んな拍手が送られていました。

ミュージカルコースの4年生にとっては、今回が卒業公演となり

ます。終演後、4年生代表者によるお礼とお別れの挨拶が行われ、思わず涙を誘う感動のシーンとなりました。一人ひとりの思い出を胸に巣立つ学生達に、暖かく励ましの拍手が鳴り響いていました。

## 音楽学部

### 「The renaissance21 ～オーケストラ×ライブ～ を実施しました

音楽ビジネス・ステージマネジメントコース、サウンドメディアコース、音楽療法コースの3コース合同の音楽企画である「The renaissance21～オーケストラ×ライブ～」を2010年3月24日に行いました。第7回目となる今年は、会場を本学東キャンパス・3号館ホールに移しての開催となり、初めての試みになりました。

今回は例年までのタイトルに～オーケストラ×ライブ～をサブタイトルとして設定し、お客様との距離を縮め、ライブ感あるコンサートにしようという意味を込めました。聴いて・観て・感じて楽しめるものにしていきたいという願いがありました。ここ名古屋芸術大学とコラボレーションさせ、沢山の学生、コースも巻き込むぐ

らいの勢いで制作していきました。

第7回のテーマは「空」。色々な表情を持っている空を私たちの心情にリンクさせてみました。悩んだり、苦しんだりする事もあるけれど、今しかできない事に前向きに明るく向き合っ、全世界と繋がっている「空」のように広い心を持っていこう、というメッセージが詰まっています。このテーマに沿って、サウンドメディアの学生が作曲を手掛けてくれました。演出は音楽療法コースの学生を中心として一つのものに作りあげていきました。今回、初の試みの一つであるパイプオルガンを使った演奏や、客席に楽器を置きサラウンドを楽しめるようにしました。これは、名古屋芸術大学で行うからできたことで、本学の特



徴をアピールできたと思います。

The renaissance21には約1年間の時間を費やしてきました。1年前に先輩方から引き継いだ時には、プロデューサーという大役にプレッシャーを感じつつも、一つの挑戦として楽しみながら役目を果たすことができました。同じ学生の仲間で作っていくことで、いろんな意見が聞け、チャレンジをし、絆を深めることができました。当日は、雨天の中大勢のお客さんが来てくださり、無事に終えること

ができました。これもスタッフのみなさん、先生方、セントラル愛知交響楽団、指揮者を務めて頂いた道端大輝さん、地域の方のおかげだと思います。たくさんの人に感謝の気持ちを伝えたいです。

このThe renaissance21が永遠に引き継がれていってほしいと思います。

音楽文化創造学科  
音楽ビジネスステージ  
マネジメントコース  
4年 大箸 由香里

## 人間発達 学部

### 「新入生オリエンテーション合宿」

①新しい人間関係に慣れるための第一歩とする、②大学での学びに対する主体性を育てる、を主たる目的とした新入生オリエンテ

ーション合宿を、入学式の翌日から2日間にわたり、三重県志摩市の「合歓の郷」で実施しました。

昨年までは新入生と教員で行っ

ていましたが、今年は先輩の4年生11名の参加を得て、諸活動でリーダー性を発揮してもらいました。新入生にとってぐっと親近感のある合宿になりました。

一日目は、まず学部長、学科長から、大学生として自律した生活

をすることが大切である、大学の第一目的は勉強すること、自主的な学びをしよう、後期青年期にできた友は一生の友となる、などの講話がありました。メモをとりながらの真剣な態度は、大変好感のもてるものでした。

二人の教員による講演「歌あり、我が人生楽し！」と「学びへの誘い」は、新入生に対し高校時代とは異なる大学生としての生き方や自覚を、大いに促す機会になりました。A教員は、百歳までの人生設計を立てることの大切さや、好きなことを職業にする幸せについて、時にすばらしい歌声を交えながら、熱く熱く語られました。B教員は、気になったことには極めるまで追い求めよう、疑問の答えを見つけることは生きるエネルギーにつながるんだよ、と自身の来し方を交えながら学ぶ楽しさ・学ぶ大切さを強調されました。その後、4年生が中心になって

のユニークな「教員紹介」「自己紹介ゲーム」があり、夕食後も9時すぎまで車座になってゼミ単位で討論を行いました。どのゼミも疲れを忘れて、新しく始まった大学生活への不安や期待について熱心に話し合いました。二日目は、全体会で昨夜ゼミ毎に話し合った内容の発表をしました。発表の中身から、ゼミ生同士が打ち解けて話し合いを進めている様子が浮かんできました。学科主任、学科長から、アルバイトはできるだけ少なくして、大学では自分で生きていける力、文化を継承する力をつけよう。子どもに何を伝え、どのように育てたらよい



かを追究していくことが大切です、との講評がありました。前日と比べて寒い日になりましたが、このあと昼食まで親しくなった仲間同士で、アーチェリー・卓球・クレ射撃・クラフト作り・ランドカーなどで、「自

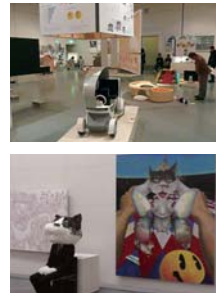
然とスポーツに親しむ時間」を楽しみました。参加した新入生・4年生・教員が濃厚な時間を共有できた2日間でした。人間発達学部講師 柳生 みよ子

## 美術学部 デザイン学部

### 第37回 卒業制作展 / 記念講演会

第37回名古屋芸術大学卒業制作展が3月2日(火)~7日(日)まで、愛知県美術館ギャラリー、名古屋市民ギャラリー矢田、本学西キャンパスの3会場で行われました。期間中、各会場では本学教員及びゲストによる作品の講評会が行われました。また、最終日の7日には、愛知

芸術文化センター 12階のアートスペースにおいて、午前中に美術文化学科第6回卒業生優秀論文発表会が、午後には、本学美術学部の浅野 徹教授による記念講演会「岸田劉生とその時代」が催され、本学関係者を始め多くの方が聴講されました。さらに、本年度は、名古屋市中



村区のシネマスコレで、卒業制作(大学院の修了制作も含む)の映像作品上映会が、6日・7日の

二日間にわたって行われ、大勢の関係者が視聴されました。

## 美術学部 デザイン学部

### 第14回大学院美術研究科・デザイン研究科 修了制作展が行われました

第14回名古屋芸術大学大学院美術研究科及びデザイン研究科の修了制作展が、3月9日(火)~14日(日)まで、名古屋市民ギャラリー矢田で開催され、この春、大学院修士課程を修了する学生たちの専門的研究と研鑽を重ねて制作された作品が一堂に展示されました。美術研究科美術専攻では、絵画

研究(日本画)と絵画研究(洋画)、造形研究(彫刻)及び同時代表現研究の各専攻生が、2年間の集大成である自己表現としての作品を展示。デザイン研究科デザイン専攻は、クラフトデザイン研究、3Dデザイン研究、メディアデザイン研究、ヴィジュアルデザイン研究で、各専攻生の感性と専門分



野の知識に裏付けられて表現された作品が展示されていました。期間中会場には、大勢の関係者

が訪れて熱心に鑑賞していました。

## 美術学部 デザイン学部

### オープンキャンパス2010【スプリング編】 春、名古屋芸大と出会う!!

名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部のオープンキャンパス【スプリング編】が、春らしい日差しのなか、3月28日(日)に西キャンパスで開催されました。春一番

のオープンキャンパスとあって、アート・デザイン好きの高校生や父母が、10時のスタート前から続々と総合受付前に集合。キャンパスツアーに参加したり、思い思

いに校内を見学して一日を過ごしました。

### アート&デザインの魅力にふれる! 未来のわたしはアーティスト!?

今回のオープンキャンパスでは、おすすめイベントとして「スプリング編 特別講義」と題し、〈実

技講習会 デッサン〉が開催されました。デッサンの重要ポイントを実際に大学の先生から学べる講義とあって、大勢の高校生が参加。美術学部とデザイン学部に分かれ、アートやデッサンの基本を修得するとともに、クリエイティブな体験の楽しさも満喫していました。

デザイン学部では、机の上にティッシュボックスやドリンクのボトルを配置して思い思いの構図を決め、デッサンに励みました。美術学部では、開放的な明るい教室で、彫刻や鳥のはく製、花瓶、果物などの静物から好きな題材を選んで描き始めました。参加者は時々先生からアドバイスを受けたり、質問をしたりしながら真剣に取り組んでいました。

また、デザイン学部・美術学部ともに相談コーナーが設けられ、高校生たちは自分の作品を持ち込んで、各分野の専門の先生によるアドバイスや講評を受けることができました。さらに、両学部全体のアドバイスが受けられる進路・入試情報コーナー、就職コーナー、国際交流コーナーなどの大学情報コーナーが設けられました。入試相談コーナーでは、入試の方法や各コースの詳細などについて質問

が寄せられていました。

### 学内を探索しよう！ 在校生が案内するキャンパスツアー

西キャンパスのゲートを入り総合受付を済ませた高校生と父母のなかには、在校生が学内を案内する「キャンパスツアー」に参加する人達も大勢います。「キャンパスツアー」は所要時間約60分で、美術学部見学、デザイン学部見学にわかれて行われます。学内のさまざまな場所をくまなく巡りながら在校生のナマの声も聞くことができるので、毎年好評なイベントになっています。

キャンパスツアーでは、メタル工房・セラミック工房・木工房・ガラス工房など、名古屋芸大が誇る工房を巡りますが、本格的な設備が整った施設に高校生の目が輝きます。木工房では、デザイン学部スペースデザインコースの卒業

制作で優秀賞を受賞した武藤彩加さんの作品を見ることができました。「Palette Table」という作品で、こどもの成長に合わせて幾通りにも変化できる家具ということで、実際に参加者も触ってみながら説明を受けました。

図書館の見学では、司書の方から「雑誌が150種類あり、そのう

ち50種類は洋書であること。雑誌は重要な情報源で頻繁にチェックすることが大事」という話を聞きました。また、ギャラリーではデザイン学部各コースの選抜展が同時開催されており、デザイン性の高い作品が並ぶなか、参加者は興味を引く作品を見つけては熱心に見入っていました。



## 美術学部

### デザイン学部

### リモラッピングデザインコンペで 本学デザイン学科(MCDコース)が 2年連続優勝!!

中部電力広報部の企画で行われているリノモ車両ラッピング広告デザインコンペで、本学デザイン学科(メディアコミュニケーションデザインコース)が2年連続で優勝しました。

今回の制作テーマは「愛知・名古屋が元気!~Power Linimo~」で、「全国的に不況の嵐が吹き荒れている中で、最近愛知・名古屋も元気がないといわれますが、日本のど真ん中、愛知の底力を見せつけよう。」というもので、不況を吹き飛ばす「Power」がテーマでした。

昨年9月の審査で本学のチームが優勝。採択された作品は

「Sweet Power Linimo」で、そのコンセプトは、長い時間を掛けて成長する「木」をモチーフとし、苦しい状況をみんなで一緒に乗り越えていく「持続的なPower」を表現。デザインされた木の葉にはエネルギーなイメージのビビットカラーと、柔らかいイメージのパステルカラーを配し、大きな木から優しく元気なパワーが町中に降り注ぐ様子を描いています。果実や花をつけ、鳥が遊ぶ生命力に満ちた「Sweet Power Linimo」が現在、名古屋東部丘陵地帯を走っています。

愛知万博が行われたこの地域には、大学やその関連施設も数多く

配置されていて、本学もグラウンドを所有しています。「Sweet Power Linimo」に乗ると、「名古屋芸術大学長久手グラウンド」の看板が目に飛び込んできます。本学学生がデザインした車両の車内から名古屋芸術大学の看板が見えるのも楽しいものです。

今回のコンペは、メディアコミュニケーションデザインコース

2年前期の学生にとって初めての体験であり、コンセプトシートの作成や学外でのプレゼンテーションなど、大変貴重な体験となりました。また、大学にとっても、このような一般企業とタイアップしたデザインワークに参加することは、学生への教育効果が高いことが実証されています。



## 大学 大学院

### 2010年度 名古屋芸術大学入学式

桜の咲き誇る4月5日、2010年度の名古屋芸術大学入学式が同大西キャンパス体育館で行われました。学部入学生(音楽・美術・デザイン・人間発達学部)と大学院

入学生(音楽・美術・デザイン研究科)及びその保護者の方々、また、来賓の皆様をお迎えし、本学教員役職者をはじめ教職員が着席する中、恒例の名古屋芸術大学

ウィンドオーケストラによる式前演奏が行われ、Jupiter(曲名)が会場に流れていました。

定刻となり、開式のことばに引き続き、学長から学部・大学院入学生全員の入学が許可されました。本年度から学長に就任された竹本義明学長が式辞に立ち、新入生に

歓迎の言葉を述べられました。学長は式辞の中で、「現在、国際社会の社会構造は急激に変化し、国や地域社会に大きな影響を与えています。このような社会構造の変化は大学にも大きな制度改革を求められていると考えられます。社会制度の変化に対し、本学が掲げる人

間教育、芸術教育が社会的に一層重要な役割を担うこととなります。大学は、教育課程の見直しを行い、学士教育を充実します。皆さんは、学部の専門の知識を身につけるだけに留まらず、世界に通じる学士になるための知識を学んでいただきたい。また、次の3点、①基礎学力の向上と教養の習得、②学外、授業以外での勉強時間をしっかり確保すること、③名古屋芸術大学の学生として誇りを持ちマナーを守ること、を実行して欲しいと思います。今日の入学の日から、卒業後・修了後の自らの姿を思い描きながら、目標や計画を持って大

学生生活をスタートしていただきたい。」と激励されました。

続いて、入学生代表による宣誓が行われました。大学院の総代として、音楽研究科器楽専攻の辻亮平君が、学部の総代は美術学部美術学科の熊崎 葵さんが力強く宣誓を行いました。

その後、本学の設置法人である学校法人名古屋自由学院の理事長、川村大介氏が挨拶を行い、また、来賓を代表して、北名古屋市長（代読：教育長）の祝辞が行われました。

そして、来賓の皆様のご紹介があり、最後に、本学教員役職者を



紹介して式典を終了しました。

式典終了後は、再び、名古屋芸術大学ウィンドオーケストラにより、新入生歓迎演奏が行われました。音楽学部演奏学科竹内雅一教授の指揮により、フィリップ・ス

パーク作曲の「A Weekend in New York」が演奏されました。ウィンドオーケストラの重厚な音色が会場一杯に響き、芸術大学にふさわしい趣のある入学式となりました。

## 大学 大学院

### 東・西キャンパス 新入生歓迎祭

**東** キャンパス 平成22年4月10日(土)、名古屋芸術大学東キャンパス学生自治会執行部は、年度はじめの催しとして毎年恒例となった「新入生歓迎祭」を開催しました。

「新入生歓迎祭」は、ご入学おめでとうございます！” “名芸大

へようこそ！”という在校生から新入生へ歓迎の気持ちを込めて、盛大に開催しました。東キャンパス中庭に設置した屋外ステージ上では、新入生をはじめ来場者が楽しめるクイズ企画やバンド演奏、ミュージカルコースによるショー

や、実演を交えてのサークル紹介、豪華商品が当たるビンゴ大会などで会場を沸かせました。さらに、学生により出店された模擬店やサークルブースが屋外ステージを囲むように立ち並びました。また、中庭だけでなく、大学のいたる所で活動的なサークルが自ら来場者を集め、普段の活動を発表し、東キャンパスは歓迎ムード一色とな

りました。

「名芸大」のカラーをアピールする場として、今年も個性的且つ盛大な一日となりました。

**西** キャンパス 今年のテーマは「アラタ」 「アラタ」とは漢字で「新(しん)(あたらしい)」と書きます。また、それぞれの頭文字を取ると、「A・R・T」で「アート」になり



東キャンパスの様子



西キャンパスの様子

## Column NUA No.10

### あこがれと運命愛

音楽学部教養部 教授 中河 豊

あこがれを知るひとだけが私の苦しみをわかる (Nur wer die Sehnsucht kennt, weiß, was ich leide.)。

ある機会にシューベルトの作品「ミニヨンよせて」に接した。歌詞はゲーテによる。

この詩では「あこがれ」が中心的な概念である。そして、これは「知る」という動詞と結合し、「あこがれを知る」というフレーズをつくる。

このフレーズの重要性は、シューベルトの歌曲では反復という形式で示される。さらに、それは最も高いピッチ -最高音- で歌われる。「あこがれを知るひとだけが私の苦しみをわかる」の歌詞が反復されるとき、最初は「あこがれ」が、次は「知る」が最高音にある。「あこがれを知る」という経験がアクセントとニュアンスを変えて繰り返される。

「あこがれ (Sehnsucht)」とは、自分にはないもの、今の瞬間にはないものを希求する心情である。この概念は、ドイツ・ロマン主義において用いられ、人間の経験の彼岸にある絶対的なものを求め

る心情を表した。先の詩は「あこがれ」の概念を用いる限り、きわめてロマン的に響く。事実、この歌詞には「私は、孤独に、あらゆる喜びから離れて、蒼穹を、その彼方を見つめる」との部分が続く。シューベルトの曲では「そのかなた」も、最高音の位置にあり、彼岸性を強調しているかのようである。

しかし、ここで蒼穹の彼方に想定されているのは、有限な経験を超えた絶対者ではない。それは「私を愛し知っているひと」である。あこがれは、遠方にいるひと、「自分を愛し、自分を知っているひと」を想う。ここには理想主義を回避し、個人の身近な経験を重んじたゲーテらしさがある。

ます。新入生にとって、新しい生活、新しい出会い、全てがこの名古屋芸術大学で始まります。これから名芸生として、一人のアーティストとして、新しいスタートラインに立つ新入生を名芸生全員で祝いたいと思いこのテーマとし

ました。  
今回の新歓では全体をテレビの世界に見立てて、コントを中心にダンスやゲームイベントを行いました。内容は、海外のテレビショッピングをイメージしたものや、「にゃんちゅう」や「わくわ

くさん」などNHKのキャラクターを真似たコント、ピストロスマップをパロディしたゲームイベントなどです。オープニングとエンディングでは映像とダンスに力を入れました。ステージ外でも、新入生に「芸大らしさ」を感じても

らえるような取り組みとして「アートイベント」という企画を作り、ライブペイントなどを行いました。  
これをきっかけに新入生の皆さんが少しでも名芸に馴染んでくれたら幸いです。

## グループ校特集／滝子幼稚園

### 滝子幼稚園の年間行事と活動のご報告

滝子幼稚園では、「幼児にはていねいに」「保護者にはくわしく」「地域にはあまねく広く」を運営方針に、子どもたちが楽しく遊び、活動するなかで生きる力を醸成しています。

学ぶ教師、学ぶ保護者があってこそ、その目的を達成することができます。

常に「聴く」「ほめる」「笑顔」をこころがけ、「認められる」「楽しい」「安心できる」雰囲気が園内のいたるところに醸し出されています。

今回は「こんなに楽しいことがあったんだ」「こんなこともできるんだ」…想像と感動のある活動の一部を紹介します。

4月	入園式・始業式・個人懇談会(年少)	10月	入園願書受付・滝子キャンパス合同防災訓練 豆消防士体験・運動会・いもほり遠足
5月	子どもの日大会・個人懇談会(年中・年長) 内科検診・春の親子遠足・愛園会総会	11月	作品展・人形劇鑑賞会・秋の遠足 学院創立記念日・個人懇談会
6月	歯科検診・家族ふれあいの日両親参観	12月	クリスマス会・おもちつき大会
7月	保育参観・親子給食(年少)・七夕まつり会 お泊り保育(年長)・プラネタリウム見学(年長)	1月	冬季休業・保育参観・人形劇鑑賞会
8月	夏季休業・夏季保育・夏まつり盆踊り大会	2月	節分・生活発表会・一日動物園
9月	入園願書配布・入園説明会・未就園児と遊ぶ会 おじいちゃん・おばあちゃんと遊ぶ会	3月	ひなまつり会・学級懇談会 おたのしみ会・卒園式・終了式



夏まつり盆踊り大会



一日動物園



運動会



生活発表会



秋の遠足



お泊り保育(年長)

ゲーテの詩は、あくまでも個人の想いを取り上げている。それは、自分を「愛し知っている」ひとを念頭におく。しかし、あこがれはまだない価値を希求する心情であり、よりよき生への願望である。あこがれという心情の共有は、他者の苦しみも含めて、人間相互の理解・結合を可能にする。このように広く解すれば、これは魅力的な主題である。

以前から好きな言葉にニーチェの「運命愛(amor fati)」がある。「あこがれ」の概念は、異質に想われるこの言葉への連想を生じさせた。異質と思われる根拠は、「運命愛」が現状への諦念、

さらに妥協を想起させるからである。つまり、どうしようもないもの、必然的な現実の受容である。

しかし、ニーチェは自己決定的主体を構想したドイツ観念論を、さらに絶対的世界というロマン主義的虚構を徹底的に破壊したにせよ、人間の自己決定性という主題は維持し続ける。

ニーチェの意味での運命愛は、たえまなく生成する自己とその生の肯定である。生は、所与ではなく、生成である。それは、より高いものへと向かう瞬間の連続である。創造性を基礎にしたこうした生こそが運命の肯定を生み出す。ここには生を肯定する意志、根源的な自己決定性がある。

この意味では、あこがれと運命愛を異質の他者

ではない。あこがれは自分の運命の肯定の上にも成立する。

「ミニヨンによせて」に接するたびに、未完に終わった過去への感傷も含めて、「あこがれ」が様々に生起する。この生起が生きていることの肯定、運命であると感じてみたい。あこがれも、運命愛も、実体なき夢ではないことを祈る。

(本学同僚バリトン歌手沢脇達晴さんより「ミニヨンによせて」の曲を紹介していただいた。)



現在のクルマは端境期にあるという。「電気自動車 came ときに、どうなるかというのを楽しみますね」



# マスター ↑↓to アーティスト



## 【第10回】 <ニュートラル>

片岡祐司 デザイン学部  
インダストリアルデザイン  
選択コース 准教授

(かたおか ゆうじ)

福岡県生まれ。

1979年 武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科卒業

1979年 武蔵野美術大学ID研究室勤務

1980年 スズキ株式会社入社  
エクステリアデザイナーとして生産車、ショーモデルの開発を担当。  
チーフデザイナー、先行開発グループ課長、  
小型車グループ長を歴任。

2002年 スタジオ担当としてスズキ㈱デザイン部全スタジオの  
管理統括

2005年 スズキ株式会社退職

自動車技術会デザイン部門委員会委員  
JIDA中部ブロック幹事

自動車というのは、摩訶不思議なものである。個人が所有するモノの中で、住宅に次いで高額な商品でありながらもまるで服を選ぶかのように、その色や形に重きを置いて選ばれる。単なる移動のための道具であるはずなのだが、時として、持ち主の地位を示すステータスシンボルであったり、人生に欠かせない相棒のような存在であったりもする。今でこそエコロジーや不経済という観点から、若者からは避けられる傾向にあるが、地球規模で考えれば、かつて考えられないほどの数の自動車が、この星の上を走り回っていることになる。

「クルマ」というモノへの考え方はさまざまにあるが、こと工業デザインという観点で見たとき、自動車デザインというものが、その注目度といい複合的な要素といい、一つの到達点であることに異論はないだろう。そ

んなカーデザインの世界の第一線に、長い間、身を置いてきた。「いつかは大学に戻ろうと、大学の方がいいなどは思っていました。」卒業してからも大学に残り、研究員として勤め始めた。そのまま教鞭を執るつもりだった。

ところが「デザインを教えるなら、やっぱりデザインができなきゃ」と考えを改め、たまたま募集のあったスズキ自動車へ入社した。運も味方した。当時のデザイン主任が体調不良で降板、その代理として2代目のアルトを担当、大きな仕事からキャリアをスタートさせた。入社間もない者に、過大な仕事が与えられた。面白くないわけがない。夢中で仕事に励み、気が付けば50台以上を担当、グッドデザイン賞11点など、数々の華々しい実績を挙げていた。「10年くらいで戻れるかなと思ってたんですけど、そのままずっとです。ただ、徐々に現場を離れてマネジメン

トの仕事に移り変わってきましてね。そろそろ退職しにくい立場にもなり、まだ自由の利く今しかないと思い、リセットボタンを押しました。」未練もなくあっさりと教育の世界へ鮮やかに転身した。それまでの刺激的な世界から教育の世界へ。「面白いですよ。こちらの方が刺激的ですよ。学生たち、皆違うでしょ、一人一人。個性も、考え方も、見方も。クルマだったら半年、あるいは1年とか、一つのことをずっと考えている。でも、人って瞬間々々、全部違う。そこで、毎日対決してるわけですよ。何言ってもやろうかな、何アドバイスしてやろうかな、何教えてやろうかな…。」

「超」が付くほどの多忙な会社員生活。一度に10台のデザインを手がけたこともあった。ひと月の休みが、1日、2日ということもざらであった。第一線で働いている人々



1983年  
マイティボーイ



1984年  
アルト(2代目)  
Japan Best Car Design Award  
大賞

2~5代目まで、歴代のアルトを担当。「一番安くて、確実に売らなげやいけなククルマ。数を売れるもの難し、プレッシャーはすごいですよ。」



1988年  
エスクードハードトップ  
グッドデザイン賞受賞  
Japan Best Car Design Award  
新ジャンル開拓賞  
UK's WHAT CAR誌  
CAR OF THE YEAR



1988年  
エスクードコンバーチブル  
グッドデザイン賞受賞



1988年  
アルト(3代目)  
グッドデザイン賞受賞



1991年  
カプチーノ  
グッドデザイン賞受賞  
Auto Design92 デザイン大賞  
Auto Design92 スポーツカー部門賞



1994年  
アルト(4代目)



1998年  
ジムニーワイド  
グッドデザイン賞受賞  
Off Road and  
4Wheel Drive Magazine  
Best 4x4 OF THE YEAR



2001年  
GSXR-4  
東京モーターショー  
ショーモデル



2002年  
ラバン  
ラバンを作ることで、自分の意識も大きく変わった。「モノに対してどれだけ精神性が盛り込めるか」というところがね、まだまだかなと思っています。もうちょっと愛着の持てる、可愛がりたくなる魅力、そういうものが出てくるといいと思います。」



2003年  
S-Ride  
東京モーターショー  
ショーモデル



2005年  
スィフト  
グッドデザイン賞受賞



「立体を作る面白さですね。あとは企画がな。企画の段階の面白さ。じつはね、絵を描くとかはあんまりなんですよ。僕はその最初のコンセプトとか企画とか、提案することが好きだった。それから一方で粘土で物を作るのが好きでした。クルマでいうと、最初と最後です。」  
スィフトは97年に提案し、8年越しで世に出た商品となる。デザイン発のクルマ。

- 1985年 Japan Best Car Design Award 大賞 (アルト・フロント)
- 1989年 Japan Best Car Design Award 新ジャンル開拓賞 (エスクード)
- 1992年 英国 Auto Design92 デザイン大賞&スポーツカー部門賞 (カプチーノ)
- 1999年 日経新聞社優秀製品サービス賞 最優秀賞 (Kei)  
グッドデザイン賞 11点 (アルト、エスクード、カプチーノ、ジムニー、Kei、MR7ゴン、スィフト他)

デザイン担当機種数  
ニューモデル、フルモデルチェンジ…34機種  
ショーモデル…18機種  
担当機種生産台数100万台以上

は、おそらく現在でも、状況は変わるまい。厳しくも惹きつけられる世界。その険しくも轟感的な世界を知り抜いている。「学生たちには、力強い生き残る力を持ってもらいたい。厳しい世界ですからね。なかなか、社会の厳しさは理解できないと思いますが、そういうところで勝ち残っていく、そのことの厳しさを学んで欲しい。今は、会社や世の中が難しくなっているから、学生達も認識はしてきてますが、現実はずっと厳しいものですね。」

自分の仕事で印象に残っているものを何うと「ラバン」を挙げた。「ラバンは他の作品と比べると画期的な作品です。それまでの自動車らしいスタイリッシュで速そうなカタチから離れ、若い女性向け『ゆるい』カタチを提

案しました。そのためには若い女性の気持ちを理解しなければならず、女性誌を読みふけったり、ユルキャラを研究したりしました。そして社内の若い女性社員、入社したばかりの子や生産ラインの子達も呼んできて、モデルを見せてはとにかく意見を言わせてみる。それをずっと聞き続けました。そうすると色々なことが判ります。それをカタチにしてみました。それ以前も同じ気持ちだったのですが、それをより積極的に進めたのがラバンで、自分の中では大きな意識改革がありました。」ユーザー本意で考えるという、デザイナーとしての本道に立ち返り、極めて忠実に実行したことで大きな成果を得た。

『自分』があると邪魔するんです。無いほうがいい。このクルマはこうあるべきだという主義主張を持っていると、それしかできないんです。そうではなくて、自由に振れるよ

うにいられることが、デザイナーとしては大事です。世の中は、変化し続けます。瞬間的に変わっていきます。その時、強い何かにこだわりすぎるとそのまま取り残されてしまいます。長い間デザイナーを続けるためには『自分』が強すぎるとその変化が読めなくなってしまいます。変化にどれだけ追従するか、あるいはどれだけリードするかという世界で、確たるものがあると返って邪魔をするのです。」常に、ニュートラルでいることが大切だという。「失敗もたくさんありますよ。失敗するのは、思い上がって作り手の思いで勝手に作った時に起きるものです。人のことあまり考えずに、自分が(会社)こういうの作りたいから作ったみたい。どっかで間違えてるんです。」笑顔から寄せられたが、幾多の経験から出た言葉は、重く深いものだった。

## 2010年6月～10月までの主な行事・イベントスケジュール

※予定は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

### 音楽学部

- **コンチェルトの夕べ**  
7月15日(木) 18:15開演予定  
三井住友海上しらかわホール
- **オープンキャンパス**  
7月18日(日) 10:00～  
本学東キャンパス
- **夏期音楽講習会**  
7月31日(土)～8月3日(火)  
本学東キャンパス
- **第12回ピアノ・サマーコンサート**  
8月11日(水) 17:30～  
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- **オープンキャンパス**  
9月26日(日) 10:00～  
本学東キャンパス
- **ウィンドオーケストラ 第29回定期演奏会**  
9月27日(月) 18:30開演予定  
愛知県芸術劇場コンサートホール
- **研究生特別演奏会**  
10月14日(木) 18:00開演予定  
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- **オーケストラ 第28回定期演奏会**  
10月28日(木) 18:45開演予定  
愛知県芸術劇場コンサートホール

### 美術学部 デザイン学部

- **広告表現論公開講座**  
副田高行氏(アートディレクター)  
6月9日(水) 16:30～  
本学西キャンパス
- **アートクリエイターコース公開講座**  
医療と美術#4「いのちの現場から」  
6月10日(木) 16:30～  
本学西キャンパス
- **オープンキャンパス サマーI編**  
6月13日(水) 10:00～  
本学西キャンパス
- **入試教育懇談会**  
6月15日(火) 15:00～  
名古屋マリオットアソシアホテル
- **アートクリエイターコース公開講座**  
地球環境と美術#4「遺伝子組替えから生物多様性を考える」  
6月15日(木) 16:30～  
本学西キャンパス
- **広告表現論公開講座**  
西村嘉禮氏(クリエイティブディレクター・コピーライター)  
6月23日(水) 16:30～  
本学西キャンパス
- **アートクリエイターコース公開講座**  
医療と美術#5「私に何が出来るのか」  
6月24日(木) 16:30～  
本学西キャンパス
- **広告表現論公開講座**  
羽村 玄氏(NHK.TV局ディレクター)  
6月30日(水) 16:30～  
本学西キャンパス
- **アートクリエイターコース公開講座**  
地球環境と美術#5「フェアトレード」  
7月1日(木) 16:30～  
本学西キャンパス
- **アートクリエイターコース公開講座**  
医療と美術#6「病院にアートを入れるのにあたって」  
7月8日(木) 16:30～  
本学西キャンパス
- **アートクリエイターコース公開講座**  
医療と美術#7「実践者の話を聞く」  
7月15日(木) 14:00～  
本学西キャンパス
- **オープンキャンパス サマーII編**  
7月18日(日) 10:00～  
本学西キャンパス
- **アートクリエイターコース公開講座**  
地球環境と美術#6「地球環境と生き物マップ」  
7月22日(木) 16:30～  
本学西キャンパス
- **アートクリエイターコース公開講座**  
医療と美術#8「ホスピス・緩和ケアの現場から」  
7月29日(木) 16:30～  
本学西キャンパス

- **一日芸大生**  
8月1日(日) 10:00～  
本学西キャンパス
- **オープンキャンパス オータム編**  
9月26日(日) 10:00～  
本学西キャンパス

### 人間発達学部

- **子育て支援講座「親子で遊ぼう」**  
5月12日(水)～7月29日(木) 毎週水・木曜日  
本学東キャンパス9号館
- **進学説明会**  
6月11日(金) 15:30～  
名古屋マリオットアソシアホテル
- **オープンキャンパス**  
7月18日(日) 10:00～  
本学東キャンパス
- **オープンキャンパス**  
8月29日(日) 10:00～  
本学東キャンパス
- **オープンキャンパス**  
9月26日(日) 10:00～  
本学東キャンパス

- **芸大祭(全学同日開催)**  
10月28日(木)～30日(土)  
本学東西両キャンパス

### 名古屋保育・福祉専門学校

- **体験入学** 13:00～16:00  
5月29日(土)・6月19日(土)・  
7月10日(土)・7月24日(土)・  
8月7日(土)・8月28日(土)・  
9月11日(土)・9月25日(土)
- **入学選考日**  
9月18日(土)・10月9日(土)・  
10月23日(土)
- **進学相談会** 10:00～12:00  
10月16日(土)・10月30日(土)
- **学校祭**  
10月30日(土) 10:00～

### 附属クリエ幼稚園

- **親子ふれあいデー**  
6月5日(土) 9:00～  
大学 体育館
- **親子で吹奏楽を楽しもう**  
6月26日(土) 10:30～  
大学 音楽講堂

- **プラネタリウム見学**  
7月8日(木) 10:00～  
名古屋科学館
- **クリエまつり**  
7月10日(土) 16:30～  
大学 テニスコート

- **卒園児幼稚園で遊ぶ日**  
7月20日(火) 9:00～

- **運動会**  
10月9日(土) 9:00～  
大学 テニスコート

- **遠足**  
10月27日(水) 予定 9:00～  
ひばりが丘公園

### 滝子幼稚園

- **家族ふれあいの日**  
6月20日(日)

- **七夕会**  
7月7日(水)

- **年長お泊り保育**  
7月22日(木)～23日(金)

- **オープンスクール**  
8月21日(日)

- **平成23年度入園説明会**  
9月4日(金)

- **敬老会**  
9月17日(金) 年長・9月24日(金) 年中

- **23年度入園願書受付**  
10月1日(金) より

- **運動会**  
10月17日(日)

### 編集後記

本学ではこの4月より、音楽学部出身の竹本義明教授が新たに学長として就任されました。今回は、新学長になられた竹本義明氏に、学長としての抱負、取り組むべき事柄、将来に向けた本学のあるべき姿、教職員や学生へのメッセージ、などをインタビューし、特集しました。大学を取り巻く環境が厳しさを増し、多くの課題が山積する中ですが、「新しい名古屋芸術大学の創造」に向けた新学長の熱意と意気込みをお伝えしています。

学内の教育のニュース&トピックスは、学生自身の企画運営で行われている音楽と映像のイベント「ザ・ルネッサンス21」・卒業演奏会・

大学院修了演奏会やこの春のミュージカル・オペラ公演(音楽学部)、新入生の合宿セミナー(人間発達学部)、卒業制作展・大学院修了制作展・春のオープンキャンパス(美術・デザイン学部)と、入学式、新入生歓迎祭などを取り上げました。

2010年度の本誌は、例年通り、6月・10月・2月の年3回の発行を予定しています。ご期待ください。

本誌へのお問い合わせやご意見は下記のメールアドレスまでお寄せください。

geibun@nua.ac.jp



### 大学基準協会の 認証評価に合格しました

本学は2006年4月に、認証評価機関である大学基準協会の大学基準に適合と認定され、正会員になりました。認定期間は、2006年4月から2011年3月までです。これによって、法令化されている「第三者による認証評価」にも合格したことになります。



発行:名古屋芸術大学  
編集:全学広報誌編集委員会  
制作:(株)クイックス  
発行日:2010年6月10日

【お問い合わせ先】  
名古屋芸術大学 芸術文化交流室  
〒481-8535  
愛知県北名古屋市徳重西沼65番地  
電話 0568-24-0325  
Fax 0568-24-0326  
E-mail geibun@nua.ac.jp